



「しばた」 を知って楽しみ、 「新しいしばた」 の町をつくる新聞



自分でできる学習方法を指導
家庭での学習習慣獲得を支援

新発田市が小中学生の学力向上を目指す事業の一つとして、7月から実験的に「土曜学習教室」を始めてから3カ月が経過した。会場は加治川地区公民館で名称は公民館のある地域にちなんで「七社塾」(ななやしきじゅく)という。

地元加治川地区の小中学生(小5～中3)が対象で、9月11日現在41人が登録している。定員は50人なので、これからでも参加が可能であり、申し込みは随时受け付けている。受講料は無料だ。

塾講師・大学生・高校生⁶⁴人が交替で務めている。講師は1回2千500円の有償ボランティアで、毎回11人程度が児童生徒の質問に応えたり、勉強の仕方を教えたりしている。7月11日の開校時から2か月間の1回平均の受講者数は23人。児童生徒2人に対して講師1人という、ほとんど個別指導に近いぜいたくな内容になっている。



元教師や高校生など講師は多彩

**新発田の子どもは家庭学習時間が少ない
学力向上のカギは家庭学習の習慣化だ**

各種調査では学力は家庭学習の時間と比例するところが分かっており、この傾向は新発田市の児童生徒も同様である。学校における授業改善は当然として、家庭学習の習慣化を「土曜学習教室」で推し進めるのである。

勉強時間は毎週土曜午後1時半から3時半までの2時間で、途中15分の休憩をはさんだ自習形式だ。対象教科は新発田市の児童生徒が一般的に苦手とされる算数・数学と英語としているが、児童生徒の必要・要望に応じて他の教科にも対応している。

ば「すばやく解き方を教える前に、まずは学校で習つたやり方を聞き、それに合わせて一緒に考えながら、答えを導き出させよ」など、児童生徒の自発性、考える力をつけさせること、さらには進んで家庭学習に取り組む習慣をつけさせることを眼目としている。したがって、何に取り組むかは参加する児童生徒が決めている。スローガンは「見直そう！ 学習習慣・生活習慣 身に付けよう！ 自学の力」だ。

最初は緊張していた子ともたせても駆け出しがい手ごたえを感じていいようだ。七社塾に行って、家で分からなかつた問題を分かりやすく教えてもらいました。例えば、川に住んでいるメダカの食べるエサについてのことです。そのエサはアオニジドロという緑っぽい色をした長い生物と分かれました。七社塾では、自分のとけない問題を教えてもらい「石一鳥です」(加藤まいさん・小5)。

力多いよ。で、今後は学習習慣のない子たちの参加が待たれる。2人の子どもに対し、1人の指導者という恵まれた学習環境であり、熱心で指導経験豊富な元教師から年齢の近い高校生までバラエティに富んだ講師陣がそろっている。自分が学習したい内容や性格に合ったきめ細かい指導が受けられる環境が整っているのだから。

「学習意欲のある子どもたちだけでなく、勉強の仕方が分からぬ子も参加して」

分からないことは手を挙げて質問する」となっている。しかし、手を挙げる子はまだ少なく、黙々とそれぞれ用意してきた課題に取り組んでいる。そのため、講師たちが席を回りながら児童生徒の表情や動きをしながら適宜指導しているのが現状であるが、いつたん指導し始めればじっくりと話し合いながら課題の解決に当たつて、いよいよまだ雰囲気に慣れたとは言えないが逆に程よい緊張感と落ち着いてリラックラした雰囲気の中で、楽しく勉強していると言える。

新発田市では児童の放課後の居場所として、小6までの「児童クラブ」の整備を進めている。やや遅れていた五十公野小学校後免町小学校も今年度末までには、目途をつける方針だ。

来年度以降は「土曜学習教室」を他地区にも拡充すべく準備を進めている。「児童クラブ」は保護者の負担軽減が大きな目的であるが、「土曜学習教室」は学力向上に直結する取り組みだからだ。

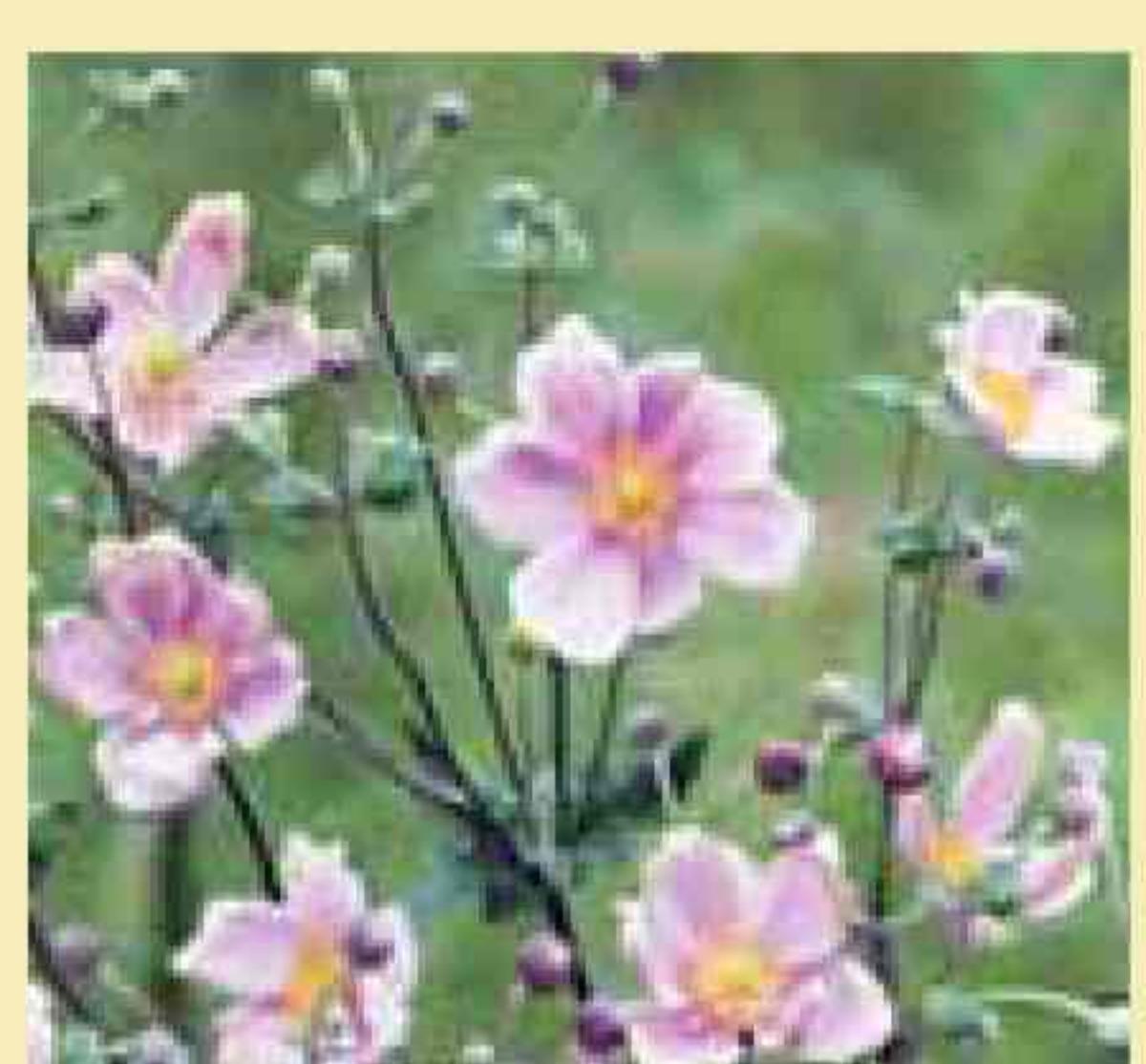
「僕は、英語が苦手なので七社塾でがんばって
うと思い申し込みました。先生方はとても優
しく、丁寧に教えてくれて、勉強がすごくよ
かどっています。少し残念なことは、先生が
仲良くなつても毎回違う先生が来るので最
初少し気まずくなることがあります。これからも
この七社塾で英語を中心にして講師の先生
に質問をして、高校合格を目指してがんば
ていきます」(川瀬龍希さん・中3)。

を学校の授業や宿題の取り組みに活かしました」と武田来夢さん（小6）。「ぼくは、七社塾に行ってよかつたと思いました。理由は、自分の分からない問題を講師の先生に聞けば理解でき、次に同じ問題が出た時に確実に解くことができたからです。分からぬままだと、また同じまちがいをしてしまいます。ぼくは、今まで宿題がなかなか進まなくて最終日までたまってしまいました。けれども、七社塾に行ってからは土曜日にかなりの量が終わります。七社塾は、静かなので集中して勉強ができるので日曜日は安心して遊べます」（佐藤亘さん）。

わたしも集中できるので良いです。先生が
ていねいにくわしく自分のために教えてく
れ、いろいろな先生が考え方の方法を教
てくれるの『勉強力』が高まりました。
でやるのと違い、分からぬところをぬい
すことなく進めていけます。私にとつては
週末のよい勉強時間になっています。こ

コラム

八ノハニ武十道



東京の金魚会場で輸入登場するまあるまひもん

新発田山自身の学生たちと

9月19日(土)、東京大学近くの東京都文京区西片。日頃は静かな住宅街に約300人が集まつて西片子ども祭りが開催された。ここに「新発田」が参加した。山車(だし)の

西片公園で開かれた縁日には新発田のお米のふるまいが行われた。参加者が両手でくう「すくい取り」に、大人も子どもも大興奮だつた。

町内巡回に大型の金魚台輪が1匹、小型の
金魚台輪が6匹登場。かわいらしくユーモ
ラスな姿に地元の皆さん大喜びだ。また、

西片と新発田のつながりは
育英会学生寮のおかげ

西片は、元は備後福山藩阿部家の屋敷があつたところで、東京大学から歩いて10分弱、現在は大きな一戸建てが立ち並ぶ都内有数の高級住宅街だ。丘の上にあり都心とは思えないほど閑静な佇まいでの住環境は抜群だ。

この町には明治時代から、新発田出身の学生たちのための寄宿舎「新発田育英会学生寮」がある。はるばる新発田から志を抱いて東京へ集う学生のため、新発田藩最後の君主溝口真正の命を受け、明治32年、昆田文次郎らが尽力して、当初は小石川に学生寮を建設、その後、明治38年に西片に移転した。現在の建物は平成11年、学生寮創設百年記念および城下町四百年記念の事業の一つとして新築された。鉄筋コンクリート3階建てで24室、低料金かつ環境の良さから人気が高く、現在は満室だ。

地元のお祭りなどで大活躍、
頼もしい新発田の若者たち

西片は近隣の白山神社の氏子であり、毎年9月20日に神輿渡御のある本祭りが、前日19日にはごども祭りが開催されている。しかし、近年は高齢化が進み、神輿の担ぎ手も減り、お祭りの運営が危ぶまれる状況が続いている。何とかしなければと考えた西片町会の人たちは、学生寮の学生にお祭り参加を打診した。学生側は、日頃お世話になつ



頼もしい育英寮の 学生たち



両者の交流は、たとえば今年から、地元小学校の夏休みのアーリ監視員を学生が任せられるなど、ますます深まりを見せている。



地元の女性たちも縁日で大活躍

お米のふるまいもんがしばもんがうラボもん

新発田の農家が新発田の農産物を
「team しばもん」が西方で直売

「team しばもん」は、新発田の農業者が「消費者との直接交流」「顔の見えるおつきあい」を通じて新発田の農産物の販売を進めようと、今年6月に発足した組織だ。新発田市の平成27年度新規事業「首都圏等販売促進支援事業」を活用、市内外での直接販売の仕組みを作り上げようというものだ。

その取り組みの一つとして、西片に注目した。西片はすばらしい住宅街である反面、丘の上に位置し、交通の便はよくない。特に買い物、毎日の食料品確保には頭を悩ませている。また、住民は安心安全な農作物に高い関心を寄せており、生産者の顔の見える

A photograph capturing a large, diverse crowd of people, predominantly young children, gathered in an outdoor setting. The scene is filled with a variety of colors from the clothing of the individuals. In the foreground, a child wearing a pink shirt is partially visible. To the left, another child is seen holding a colorful kite string. The background features a building with multiple windows and doors, suggesting a residential or institutional setting. The overall atmosphere appears to be a community event or a day trip.



A photograph capturing a dense crowd of people walking along a city street. The scene is filled with people of various ages, all moving in the same direction. In the foreground, a person wearing a dark cap and a light-colored shirt is visible. To the right, a person in a bright red shirt and a colorful, patterned hat stands out. The background shows a typical urban environment with buildings, trees, and other pedestrians. The overall atmosphere is one of a busy, crowded public space.

西片祭りに大いに華を添え、
子どもたちを喜ばせた金魚台輪



A photograph capturing a vibrant outdoor festival scene. In the foreground, several individuals are dressed in traditional Korean Hanbok. On the left, a person wears a pink and white striped top with dark trousers. Next to them, a person in a light blue top and patterned skirt carries a large, colorful, multi-layered object. To the right, another person in a light green top and patterned skirt holds a long, thin object. The background is filled with more people, trees, and what appears to be a stage or platform area, suggesting a public event.

大型の金魚台輪は新井田町内会（新発田市城北町2丁目・緑町1丁目）所有のもの。高橋町内会長は今回の取り組みに大賛成。「大いに東京で新発田をPRしてきてほしい」と、快く貸し出しを了解してくれた。

小型の金魚台輪は「金魚台輪RINGS」所有のもの。RINGSとは、金魚台輪を普及させようと市内若手有志により結成され

の催しや三之町花市など、様々な機会に、魚台輪を登場させる活動を行っている。片イベントへの参加は、RINGSにて願つてもないこと、むしろ「機会を与えてもらつて大感激」の様子だった。なお、金魚台輪を東京まで運ぶのが一つ、ヤマだつたが、さいわい新発田運輸の協力を得て、綿密な打ち合わせ通り、4トン車で搬。19日早朝、狭い住宅街路に苦戦しつつ、とか西片公園に到着することができた。

蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222	茨木建設(株) 新発田市長畠 284-1 TEL.0254-23-6851
飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134	新発田ニュープラザホテル 新発田市諏訪町 1-9-29 TEL.0254-26-3131
(株)伊藤組 新発田市島潟 1273-1 TEL.0254-22-4176	新発田建設(株) 新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711
(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056	島津印刷(株) 新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101
(株)岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550	(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011
SODデザイン 高橋智志 新発田市新富町 1-1-3ストライビル2階 TEL.0254-24-5121	大進電業(株) 新発田市佐々木 1895-9 TEL.0254-21-5000
小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497	(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191
(株)下越道路 新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296	新潟ファームサービス(株) 新発田市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828
(有)クサカベモータース 新発田市五十公野 4836 TEL.0254-22-6311	フジマ舗道(株) 新発田市島潟 4197-3 TEL.0254-26-5030
(株)こじまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381	扶桑畜産(有) 新発田市米倉字鳥越 4666-1 TEL.0254-28-5136
小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705	山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700
小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010	(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761



さすがに東京! 湧いてくるように人が集まる

いよいよ町内の山車巡行が始まる。西片町会の皆さんと学生たちが運行と警備に当たる。午後1時、西片会館前集合。いったい、どうして出でてきたのかといふほどの人。道路の遙か向こうまで人・人・人。行列は祭りの纏(まつり)の離子(はやし)が先導。次に新井金魚台輪。子どもたちほんの得意になって、われ先に綱を引っ張る。その後にRINGSの金魚台輪6台。これがかわいくて、小さい子どもたちに大人気、ジャストサイズ。最後に本来の山車が続くという順番で、西片の皆さんの配慮に感謝するばかりだ。

狭い町内の道路を延々と行列が続く。壮观! 子どもたちの笑顔がはじけている。親御さんはひたすら写真・ビデオ撮りまくり。東京の住宅街の金魚台輪、実に絵になる。途中、小学校のグラウンドを一周。まるで運動会のようだ。そして、休憩、水分補給。みんな汗だくだ。休憩中も金魚台輪と一緒に記念撮影。「かわいい」の声の大合唱だ。ウケてる。うけています金魚台輪!

再び出発。沿道には住民の皆さんが鉢なりだ。金魚台輪に驚いたり、喜んだり。金魚台輪の東京出張、文句なしの大成功である。新発田のお米のPRメインイベントの「すくい取り」

午後2時半近くになつてようやく公園に戻る。大人はもうべとべとだが子どもたちはこれからが本番、いよいよ縁日開始。さつにどんどん人が湧いてきて、公園内は人であふれ返り立錐の余地なく、すさまじい熱氣だ。一町内のお祭りにこんなに人が集まるのは新発田では見たことがない。

金魚すくい、的て、ルーレット、かき氷、焼きそば、フランクフルトなどなど。しかも長蛇の列。そして、新発田学生寮の学生たちによる福引き。商品にはお米の袋もあり。学生と子どもたちのやり取り・会話は、見て

いて実に微笑ましい。

そして「team しばもん」によるお米のすくい取り。学生たちも手伝つて、大人も子どもも真剣に米をすくう。中には力があり余って、まき散らしてしまった子どもも。時まで使って、少しでもたくさん米を取ろうとする人、笑つていねじりが完璧マジの奥様。なんと、4時半までの2時間、途切れることなくすくい取りは続き、担当者は腰痛を訴える始末だ。

ありがたかった応援、駆け付けてくれた人たち

ありがたうことに対する応援団も駆け付けた。

東京大学大学院経済学研究科の矢坂雅允准教授。「食の循環によるおもいでへり」を研究するため、昨年は外国人研究者数名を引き連れて、昨年10月は東大生20数名と共に、農業実態調査に新発田を訪れた。以来、市との交流が続いている。特に学生にとって、勉学に励むほかに、こつした社会貢献の場で活躍するのに、将来、社会に出る上で貴重な体験となるに違いない。

team しばもんは本当に、もう一つ、都内で

新発田出身千葉市在住のTさん。「金魚台輪が東京にやつてくる」と聞いて、勇んで駆けつけて来てくれた。「20年ぶりに金魚台輪を見ることができた」と感激。チラシ配りなどを一日中お手伝いしてくれた。夫が新発田出身だという世田谷のひさん「新発田が大好き」と馳せ参じてくれた。金魚台輪と一緒に町内を練り歩き、チラシ配りのほか町内の皆さんへ盛んに新発田をPRしてくれた。後日、田那さんが新発田へ里帰りし、市役所まで写真を届けてくれた。FMじばたのKさん。余りの人の多さで、ほぼ毎日放送に取り上げていただきたい。新発田関連の方々はまだまだいたようだが、何より大騒ぎの状況で話題にならなかった。今後もこうした取り組みを続け、新発田を知らない人はもちろん、首都圏在住の新

懐かしく故郷を思い出しあつた。
本当の本番はこれからだ。

西片、そして首都圏での展開

9月19日の「おまい」のお米は文字通り昨年産の古米を使ったが、10月11日は同所で新米の「おまい」を行つた。その後は希望者対応する人、笑つていねじりが完璧マジの奥様。なんと、4時半までの2時間、途切れることなくすくい取りは続き、担当者は腰痛を訴える始末だ。

お米の次は、野菜や加工品の販売を検討している。「うつし」新発田出身の学生と農家が一体となり、地域貢献のスタイルを取りつつ西片での農産物販売を展開する。

今回の取り組みが成功すれば、西片・学生・新発田(team しばもん)の三方良し。画期的・魅力的なチャレンジである。特に学生にとって、勉学に励むほかに、こつした社会貢献の場で活躍するのに、将来、社会に出る上で貴重な体験となるに違いない。

team しばもんは本当に、もう一つ、都内で

これらイベントを通じ、新発田の農産物を東京・首都圏へ大いにPR・販売していく。張り切るteam しばもん。ただし、これは彼らの事業の一つにすぎない。今後は、地元新発田のまちなかへ農産物を提供していくこと、あくまでもだわるのは顔の見えるおつきあい。これから農業のあるべき姿を模索するteam しばもんを応援したい。

台東区谷中上野桜木。谷中ヒルズ、谷中靈園と寺院の集中した江戸の面影を残した地域だ。近年、下町風情が色濃く残っているところがあつた。通りの人気スポットとして人通りが絶えない。10月に開催された谷根千エリアの芸術の祭典、「芸工展」への参加、飲食店への食材提供、RINGSによる金魚台輪の展示・運行などが行われ、大いに注目を浴びた。そして、11月15日(日)には新発田の農産物フェアを大々的に開催、併せて金井酒造による日本酒の会も予定している。

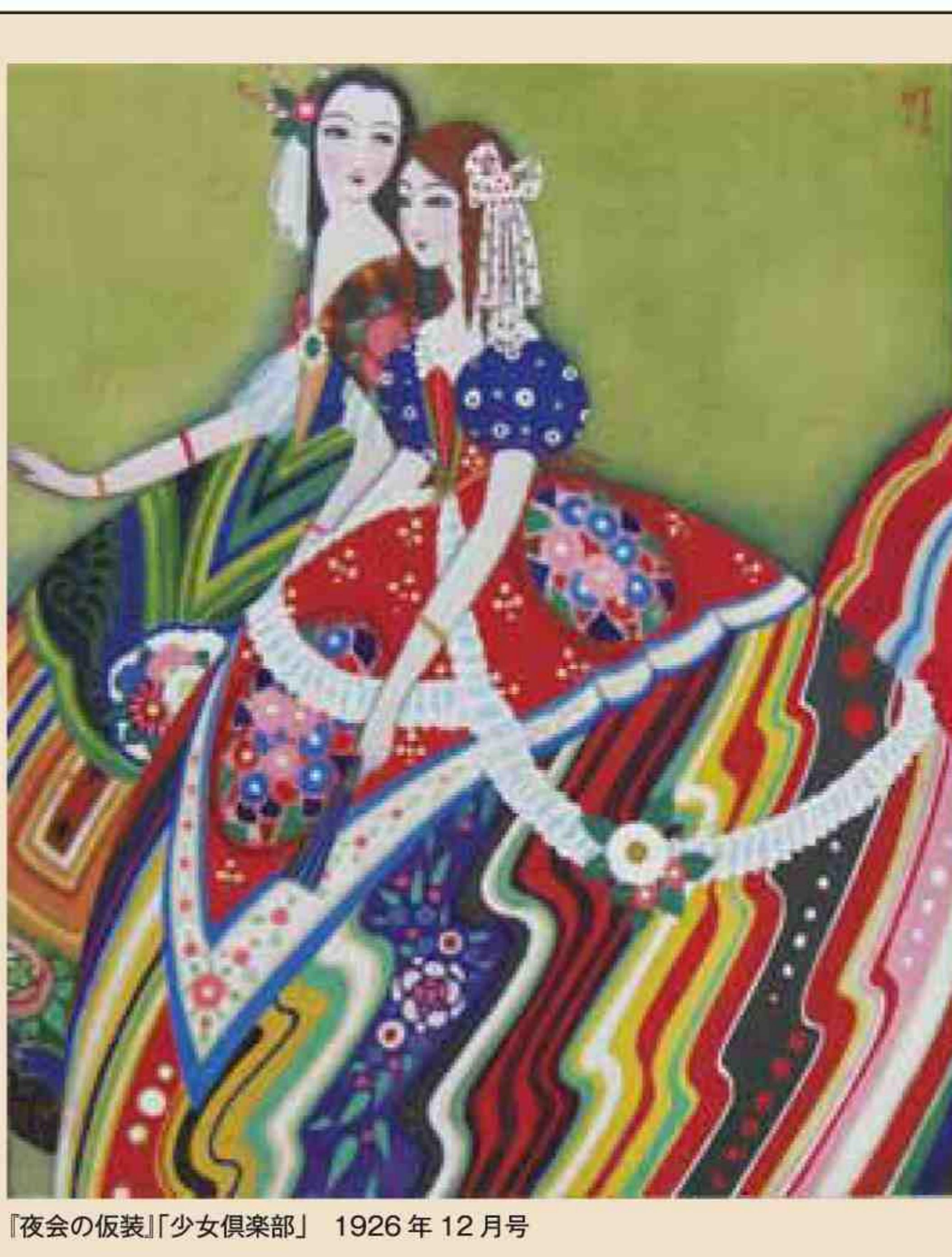
これでイベントを通じ、新発田の農産物を東京・首都圏へ大いにPR・販売していく。張り切るteam しばもん。ただし、これは彼らの事業の一つにすぎない。今後は、地元新発田のまちなかへ農産物を提供していくこと、あくまでもだわるのは顔の見えるおつきあい。これから農業のあるべき姿を模索するteam しばもんを応援したい。



お米のすくい取りは大人も子どもも夢中



農家の直売所
ヒンヒン市場
●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229
●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229



「夜会の仮装」「少女倶楽部」 1926年12月号

路谷虹児記念館
〔新潟県・新発田市〕

〒957-0053 新潟県新発田市中央町4丁目11-7

TEL・FAX 0254-23-1013

※毎週月曜休館。
祝日の日は翌火曜日。

初公開作品あり。
お見のがしくなく!

渡仏90周年記念 特別企画 90年目のパリ再び 路谷虹児パリ凱旋展

開催時間：午前9時～午後5時（入館受付は午後4時30分まで）
入館料：一般500円、団体（20名以上）400円、高校生200円、小・中学生100円

五十公野小学校の発掘で「仏像」(念持仏)が出土!

東中学校区の小学校の統合に伴い、五十公野小学校で「五十公野館発掘調査」が進められており、10月24日(土)に現地説明会として、中間的な報告が行われた。

1873(明治6)年に開学した五十公野小学校が建つのは、室町時代から戦国時代にかけてこの地を支配した五十公野氏の館(住居)があったと伝えられている場所である。館のすぐ後ろに隣接する五十公野山は当時の山城で、普段は館に住み、有事には山城に立てこもって戦ったのである。

今回の発掘調査はまだ途中であるが、環濠(館の周りに張り巡らした堀)らしき跡、柱を建てた跡、井戸と思しき跡や甕(かめ)などの土器が出土している。

また、当時の人々が身につけたり、拵んだりしていた金持仏(思しき銅製の小仏像)が出土した。全高7・5cm、肩幅1・7cm、重さ58gで、鋳造品(鉄物)である。左手につぼみ状の蓮(ハスの枝を持ち、それを右手にか

ざしている。元東京国立博物館企画室長の久保智康氏の教示によれば、聖観音菩薩立像とみられるという。阿賀野市出湯・華報寺目洗沢墳墓出土の聖観音菩薩立像に類似しているのが興味深い。

この念持仏はいつの時代のもので誰のものなのか、今後の研究調査を待つしかないが、興味は尽きない。なお、発掘調査は今年中に終了する見込みだ。

五十公野氏は佐々木源氏の末裔で、戦国時代、新発田氏とともに上杉と戦った

五十公野氏は、当時この地・五十公野を統治していた豪族で、新発田氏と同族である。新発田氏は源頼朝から加治莊地頭職に補任された佐々木源氏に連なる名門^{まだ}だ。

戦いの潮目を変えたのは「後方支援」が絶たれたから

戦国時代に新発田氏・五十公野氏は上杉謙信に仕えた。1578(天正6)年、謙信の死後、景勝と景虎の間で起こった後継者争い(御館の乱)で、新発田長敦・五十公野治長兄弟は現在の川東の竹俣郷^{じよ}に住む

景勝に味方し、大いに手柄を立てた。1580(天正8)年、兄の新発田長敦が病死したため、弟の五十公野治長が跡を継いで新発田重家として新発田城主になる。そのため、五十公野氏は重家の娘婿である三条道如斎が継ぎ、五十公野道如斎と名乗った。

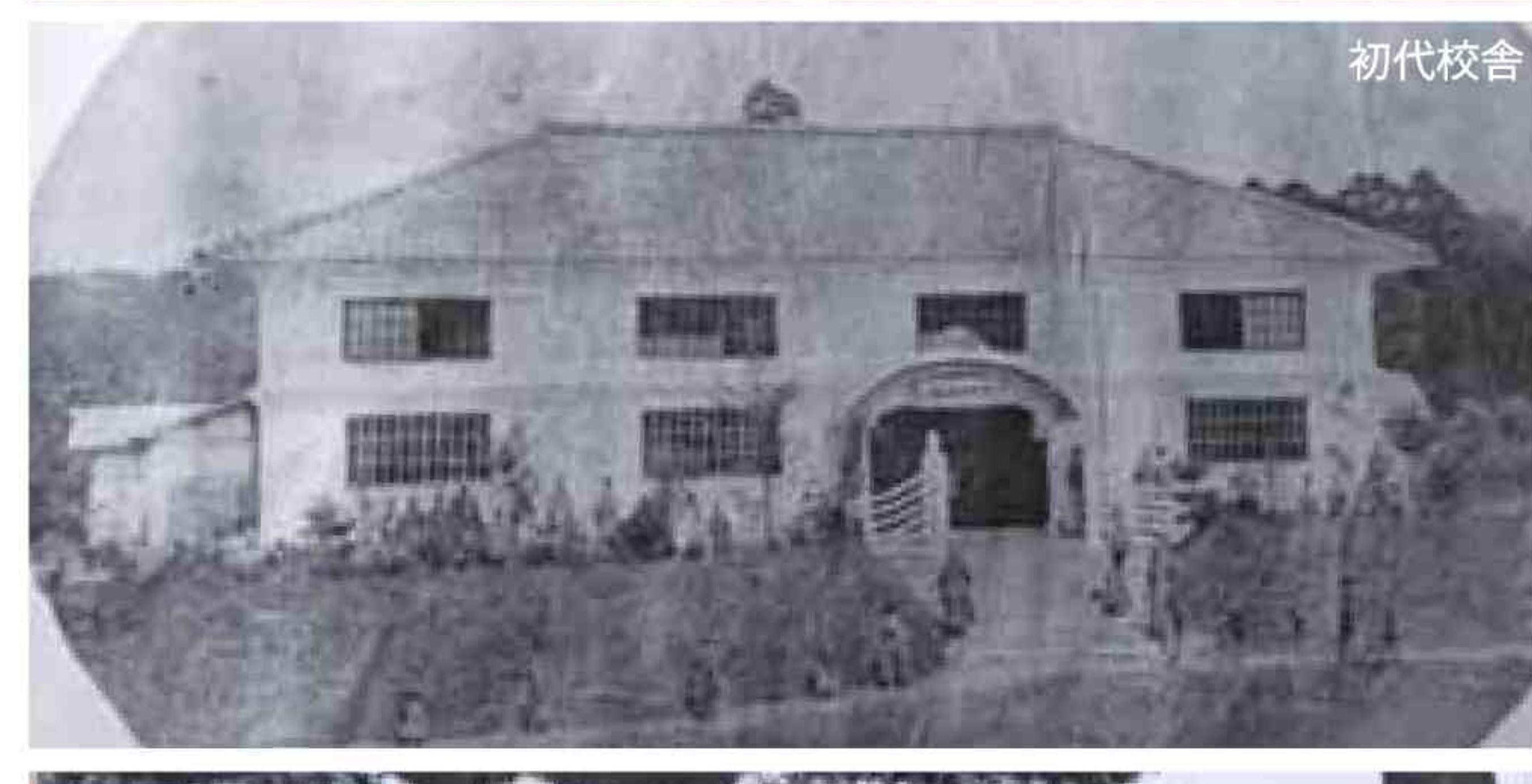
しかし、勲功自覚ましかった新発田氏・五十公野氏に対する論功行賞・恩賞は重家の期待したほどではなく、重家は織田信長と通じた。新発田重家は1581(天正9)年、上杉景勝に背き、新潟湊を奪取し新潟城を築城、その後上杉勢は度々新発田領内に攻めるが攻略することはできなかった。それどころか、1583(天正11)年の放生橋の戦いでは総大将上杉景勝を討ち取られそうになつた。

そこで、新潟城と沼垂城を陥落させた。これにより新発田重家は新潟湊から塙津瀬を経由して新発田に至る「後方支援ルート」を失って物資の補給に窮ることになる。戦において補給が絶たれれば勝利はおぼつかない。

1587(天正15)年、8月に新潟城に入った上杉景勝は13日に水原城、9月に赤谷城を攻略した。10月3日から開始された五十公野攻めは五十公野道如斎の強固な反撃のために城攻めに20日間を要したが、同年11月に陥落させた。五十公野道如斎は50日間に隣接する安養院(現在の安楽寺)で自害した。上杉方は五十公野氏配下の武士のみならず五十公野氏に縁戚関係のあるものは女子どもまで首を刎ね、新発田城下にさらしたと伝えられている。「上杉氏に従わねば」というようになるとの見せしめだった」と古者は言う。それもあってか、同28日には新発田城も落城して重家も自害した。同29日(または11月1日)池之端城の陥落をもつて新発田勢と上杉勢の戦いは終わつた。この戦いは、新発田では最大の戦いであった。溝口秀勝が新発田に入封するのはその10年後、1597(慶長2)年のことである。



発掘現場



初代校舎



二代目校舎



二代目校舎空撮。
左側の森の部分はその後東中学校が建ち、右側の田園は埋め立てられて住宅地となつた(昭和30年代)



二代目校舎空撮。
左側の森の部分はその後東中学校が建ち、右側の田園は埋め立てられて住宅地となつた(昭和30年代)

桃中軒雲右衛門
百回忌記念

100

国本武春浪曲公演 「安兵備と新発田」

2015.11/7 土 午後2時開演

限定
200席

会場 長徳寺(新発田市大栄町2-7-22)

※会場に駐車場はありません。近くの駐車場をご利用ください。

料金 前売2,000円 当日2,500円

発売 新発田市観光協会 TEL0254-26-5031

問合せ 国本武春新発田公演実行委員会
TEL090-1898-5107 または
TEL090-2733-3568

イベント
修復された義士人形
特別公開

【10:00~16:00 長徳寺義士堂】

※武庸会・修復師による解説あり。

《解説は11:30、12:30、13:30
の3回実施》